



千葉県水道局のあゆみ

「県水だより」は、お陰様で200号を迎え、また、当局は昨年6月に給水開始75年を迎えることができました。本号ではこれを記念し、千葉県水道局のあゆみについて特集しました。

時期	出来事
昭和 9年 3月	千葉県営水道発足
昭和11年 6月	千葉浄水場（現：千葉分場）給水開始…①
昭和15年 5月	古ヶ崎浄水場給水開始（平成19年廃止）
昭和33年 6月	栗山浄水場給水開始…②
昭和43年 7月	柏井浄水場給水開始
昭和47年 8月	広報紙「県水だより」第1号発行…③
昭和50年 6月	北総浄水場給水開始
平成 3年10月	広報紙「県水だより」第100号発行
平成 5年 6月	福増浄水場給水開始
平成16年 8月	県水お客様センター開設
平成19年10月	ちば野菊の里浄水場給水開始

1. 県営水道発足の背景

昭和初期、江戸川から千葉市付近の地域での水道普及率はわずか1%程度で、多くの人々は河川水や地下水に依存していました。このため伝染病が続出するとともに、火災による損害も甚大なものでありました。

このような状況を背景に、県営水道が計画され、昭和9年3月に国の創設認可を得て水道事業が発足しました。水道事業は関係市町村が個々に行うのが一般的でしたが、水源の確保などの観点から県が広域に実施した方が効果的と考えられ、県営となりました。

昭和11年6月、千葉市の千葉浄水場（現：千葉分場）において、初めて給水が開始されました。（写真-①）当時の給水人口は、約2万人でした。その後昭和15年には、松戸市で古ヶ崎浄水場が給水を開始しました。



写真-① 竣工当時の配水池(左)と高架水槽(右)

「ポタリちゃん」は千葉県水道局給水開始70周年記念として一般募集によって誕生しました。（平成19年3月）水道の蛇口を閉めた最後の一滴がポタリちゃんです。

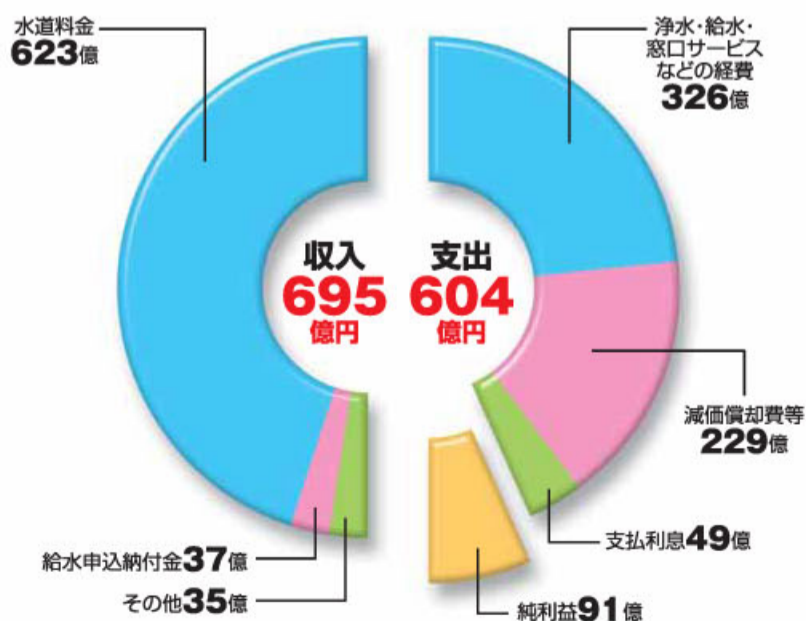
平成22年度決算の概要

水道局では、安全で良質な水の安定供給を支えるための経営基盤の強化に努めています。平成22年度決算は増収増益となり、約91億円の純利益を確保しました（なお、この純利益は、企業債の償還の財源として活用します）。

今後は、平成23年度収支に東日本大震災の影響（修繕費の増加、収益への影響等）が見込まれるほか、施設の老朽化の進行に伴い更新投資が増加していくなど、厳しい経営環境下にあります。引き続き健全経営の確保に努めてまいります。

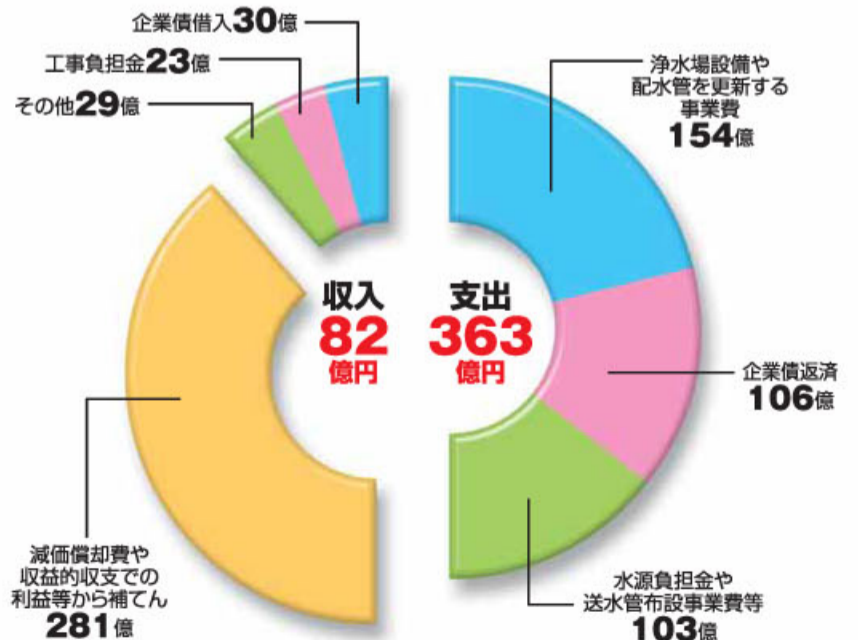
収益的収支

事業の管理・運営にかかわる収支です。



資本的収支

施設の整備・改良にかかわる収支です。



◆問合せ先:財務課審査指導班 TEL 043-211-8578